

肥料価格高騰対策事業取組実施状況報告書の記載の一例（R5.9.25現在）

○実施状況報告書の「第3 取組実績」

取組メニュー	県協議会記載の一例
ア 土壌診断による施肥設計	<p>【必ず記載いただきたい項目】 取組件数、取組面積</p> <p>【記載例】 ○参加農業者の約○割が土壌診断に取り組み（取組件数○○件、取組面積○○ha）、その結果により化学肥料低減に向けた施肥設計に着手し、従来の施肥から変更して取り組んでいる。 ○土壌診断結果から施肥設計をすることで、適正な施肥量の把握をすることができた。慣行栽培と比較して化学肥料の低減が図られた。 取組件数○○件 取組面積○○ha</p>
イ 生育診断による施肥設計	<p>【必ず記載いただきたい項目】 取組件数、取組面積</p> <p>【記載例】 ○AgriLookによる生育診断を活用し、今まで目安で施肥していた施肥量をデータに基づいて施肥することで約○割（取組件数○○件、取組面積○○ha）の低減することができた。 ○生育診断結果から適正な施肥量を踏まえた施肥設計が可能となり、慣行栽培と比較して化学肥料の低減が図られた。 取組件数○○件 取組面積○○ha ○葉色、草姿等から生育状況を分析し施肥管理を行い、必要に応じて適宜追肥を施用することで過剰施用となることを抑制した。 取組件数○○件 取組面積○○ha</p>
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入	<p>【必ず記載いただきたい項目】 取組件数、取組面積</p> <p>【記載例】 ○これまでの栽培層を低投入型の施肥量に変更したことで、化学肥料の低減が図られた。 取組件数○○件 取組面積○○ha ○栽培層の見直しを行い、既存の推奨肥料と比較して成分の低い肥料へ変更した。取組件数は○○件であり、事業を契機として化学肥料の低減につながる取組を○○ha実施することができた。</p>
エ 堆肥の利用	<p>【必ず記載いただきたい項目】 取組件数、取組面積</p> <p>【記載例】 ○堆肥の利用により土壌改良及び肥料効果が図られ、化学肥料の低減に繋がった。 取組件数○○件 取組面積○○ha ○参加農業者の約○割強（取組件数○○件）が取組を実施した。併せて地域として化学肥料の使用量低減に向けた堆肥キャンペーンなどを実施し、堆肥使用量が○t増加（面積換算○ha）し、化学肥料の低減が図られた。 ○取組件数○○件、取組面積○○haで堆肥が散布され、堆肥使用量が増加し、堆肥の窒素分を活用した施肥設計に基づく減肥に向けた取組が進んだ。</p>
オ 下水汚泥の利用	<p>【必ず記載いただきたい項目】 取組件数、取組面積</p> <p>【記載例】 ○生産者○○件、取組面積○○haで下水処理汚泥を利用し、事業を契機として化学肥料の低減につながる取組を実施することができた。利用者から生育状況が良好であることを確認したが、広く地域に普及できるものかは今後検討していきたい。 取組件数○○件 取組面積○○ha</p>
カ 食品残渣など国内資源の利用（エトオ以外）	<p>【必ず記載いただきたい項目】 取組件数、取組面積</p> <p>【記載例】 ○国内資源の利用として、水稲で取組件数○○件、取組面積○○haで、わらのすきこみを実施した。使用状況を農業者より聞き取りして生育や収量などの調査を行い、地域で効果を検証する。 ○食品残渣など国内資源の利用に取り組む生産者が○○件、取組面積○○haで確認できた。</p>

取組メニュー	県協議会記載の一例
キ 有機質肥料（指定混合肥料等を含む。）の利用	<p>【必ず記載いただきたい項目】 取組件数、取組面積</p> <p>【記載例】 ○参加農業者の約6割（取組件数〇〇件、取組面積〇ha）が有機質肥料の利用に取組み、例年の販売量を比較すると〇〇%増の推移となった。それにより化学肥料の2割減に繋がった。 ○籾殻等を活用した有機質肥料を施用する者が、〇〇件、取組面積〇〇haで従来に比べ〇〇程度増加し、土壌の保肥力を高めることで化学肥料の低減に繋がった。</p>
ク 緑肥作物の利用	<p>【必ず記載いただきたい項目】 取組件数、取組面積</p> <p>【記載例】 ○緑肥のすきこみ作業の取組が従来に比べ〇程度増加し（取組件数〇〇件、取組面積〇〇ha）、土壌環境もよく基肥の施肥量も従来の〇割か低減できた計算となる。 ○取組件数は〇〇件であり、事業を契機として化学肥料の低減につながる取組を〇〇ha実施することができた。 ○ソルゴー等をすき込む（取組件数〇〇件、取組面積〇〇ha）ことで、緑肥作物の窒素利用及び土壌の保肥力を向上により化学肥料の低減に繋がった。</p>
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用	<p>【必ず記載いただきたい項目】 取組件数、取組面積</p> <p>【記載例】 ○窒素要求量の低い品種の選定、導入し、残肥利用を主体として栽培管理を実施し、化学肥料の低減に繋がった（取組件数〇〇件、取組面積〇〇ha）。 ○肥料施用量の少ない品種の作付に〇〇件、取組面積〇〇haの生産者が取組み、化学肥料の低減に繋がった。</p>
コ 低成分肥料（単肥配合を含む。）の利用	<p>【必ず記載いただきたい項目】 取組件数、取組面積</p> <p>【記載例】 ○事業の実施により低成分肥料（単肥配合を含む。）の施肥に取り組む生産者が〇〇件、取組面積〇〇ha確認でき、化学肥料の低減に繋がった。 ○主にN、P、Kの土壌診断結果を基に、残肥を活用する単肥肥料による施肥提案を行い、化学肥料の低減につながった（取組件数〇〇件、取組面積〇〇ha）。</p>
サ 可変施肥機の利用（ドローンの活用等を含む。）	<p>【必ず記載いただきたい項目】 取組件数、取組面積</p> <p>【記載例】 ○可変施肥機の利用で、適正な施肥量の散布により化学肥料の総使用量の低減が図られた（取組件数〇〇件、取組面積〇〇ha）。 ○先進機器による肥料散布の効率化に取り組む（取組件数〇〇件、取組面積〇〇ha）、肥料施用量の低減を図った。</p>
シ 局所施肥（側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等）の利用	<p>【必ず記載いただきたい項目】 取組件数、取組面積</p> <p>【記載例】 ○局所施肥による適正な施肥量の散布に取り組む（取組件数〇〇件、取組面積〇〇ha）、化学肥料の総使用量の低減が図られた。 ○肥料施肥範囲を効率化する局所施肥（側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等）の利用に取り組む生産者が〇〇件、取組面積〇〇haあり、肥料施用量の低減を図った。</p>
ス 育苗箱（ポット苗）施肥の利用	<p>【必ず記載いただきたい項目】 取組件数、取組面積</p> <p>【記載例】 ○育苗期の効率的な肥料施用（育苗箱施肥等）の取組（取組件数〇〇件、取組面積〇〇ha）により、本圃栽培期間の基肥及び追肥量の低減を図った。 ○セル苗への定植前の適正施肥の取組（取組件数〇〇件、取組面積〇〇ha）により、化学肥料の総使用量の低減が図られた。</p>

取組メニュー	県協議会記載の一例
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し（ア～スに係るものを除く。）	<p>【必ず記載いただきたい項目】 取組件数、取組面積</p> <p>【記載例】 ○緩効性肥料等の利用の取組（取組件数〇〇件、取組面積〇〇ha）により、生育期間における過剰な追肥等の施用を抑え、化学肥料の低減につなげた。 ○化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し（肥効調節型肥料等）に取り組む生産者が〇〇件（取組面積〇〇ha）あり、化学肥料の低減につなげた。</p>
ソ 地域特認技術の利用 （ア）露地野菜栽培における土壌被覆資材を用いた栽培管理（溶脱抑制を目的とするため施設栽培は除く） （イ）肥効調節型肥料のうちプラスチック被覆肥料による化学肥料施用量の削減（被覆資材の流出防止の取組と一体的に進める）	<p>【必ず記載いただきたい項目】 取組件数、取組面積</p> <p>【記載例】 ○（具体的な取組を記載）肥料成分の流出を抑制の取組（取組件数〇〇件、取組面積〇〇ha）により、化学肥料の総使用量の低減が図られた。 ○被覆肥料の利用に組む生産者が〇〇件、取組面積〇〇ha確認でき、化学肥料の総使用量の低減が図られた。地域として、肥料価格高騰及びコスト節減対策として園芸フェアの実施と堆肥や有機質肥料の取扱を強化し、取組を推進した。</p>

（注1）参加農業者が、実施期間を通じてどのような取組を行ったか、また、その結果として、取組前と比べてどの程度の化学肥料の低減が図られたかを、使用記録を参照してできる限り定量的に記入してください。
（注2）国本省記載例が理想ですが、それが難しい場合は県協議会記載例を参考として、取組メニューによって最も適した記載としてください。

○実施状況報告書の「第4 化学肥料の使用量の低減に向けて継続的に取り組むための取組計画」

県協議会記載の一例
<p>【土壌診断関係】 ○土壌診断による施肥設計については、適正施肥を実施する観点から、農家に対して化学肥料の使用量の低減につながる取組として今後も推進をする。 ○土壌診断又は養液診断を積極的に行い、残肥等の状態に沿った肥料施用を適宜行うことにより、過剰な施肥施用を抑制し、化学肥料の使用量低減に取り組む。 ○土壌診断の分析が2割増加したことで低成分肥料への転換や施肥量の削減によるリン酸、カリなどの過剰施肥の改善が将来的に見込まれ、未実施の農家にも今後土壌診断を勧めていきたい。</p> <p>【堆肥等の利用関係】 ○堆肥や鶏ふん等の活用では、化学肥料低減に対する効果が期待されることや、有機物の補給として土づくりも期待できるため、この事業を契機に農家への提案を行っていきたい。また、堆肥については散布がしにくいといった意見もあったため、散布しやすい粒状のたい肥の普及も取り組んでいきたい。 ○堆肥や緑肥、有機物（有機質肥料含む）の活用を推奨し、当該資材の窒素成分の活用に加え、土壌の保肥力向上等につなげることで、肥効期間を最大限活用することで過剰な化学肥料の使用を抑制する。 ○栽培面においては、肥料要求量の低い品種等を調査、試験、導入することや、施肥方法等のムダを分析・改善し、効率的な肥料施用を行うことで、化学肥料の使用量を低減する取り組みを進める。</p> <p>【緑肥の利用関係】 ○ソルゴの供給量が約5%増加し、農地の地力増強や土壌流亡回避が期待できる。 肥料の削減はマメ科緑肥では期待ができるが、イネ科のソルゴでは減肥による窒素飢餓の事例もあり、将来的にイネ科とマメ科を組み合わせた体系も検討していきたい。</p> <p>【総論】 ○社会情勢の変化に伴い肥料価格が上昇する昨今、生産者の生産環境も大きな変化が求められている。今回の化学肥料低減の取組を実施することで、生産者の意識も変わったと感じる。 今後は、行政を含めた関係機関と連携し化学肥料の低減が定着できる環境を整えていきたい。</p>